

令和3年度認知症疾患医療センター事業評価の集計結果について (認知症疾患医療センター回答分)

対象数	回答数	回答率
11	11	100.0%

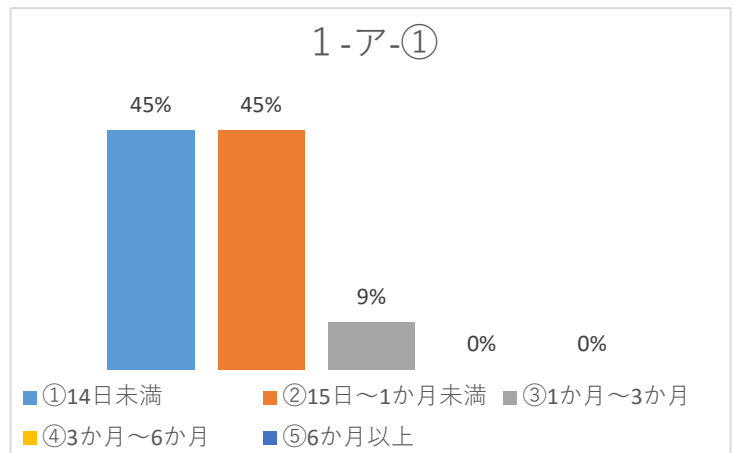
1 専門的医療としての機能

ア 認知症原因疾患別の鑑別診断の実施

① R3.4.1 から R4.2.28 までの初診までの待機日数

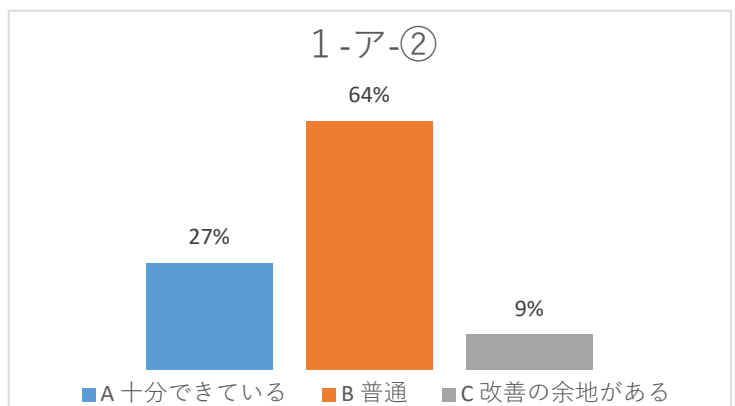
(緊急枠等を除く、予約受付時からセンターでの初診までの平均日数)

回答	回答数	パーセンテージ
① 14日未満	5	45%
② 15日～1か月未満	5	45%
③ 1か月～3か月	1	9%
④ 3か月～6か月	0	0%
⑤ 6か月以上	0	0%
合計	11	100%



② ①の日数について、どのような評価をしているか

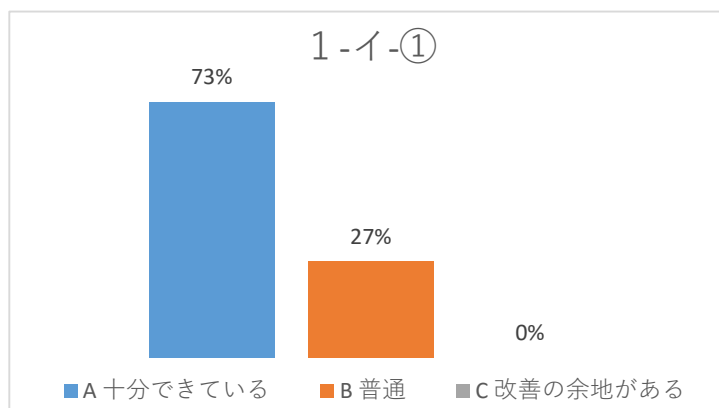
回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	3	27%
B 普通	7	64%
C 改善の余地がある	1	9%
合計	11	100%



イ 治療方針の選定に関すること

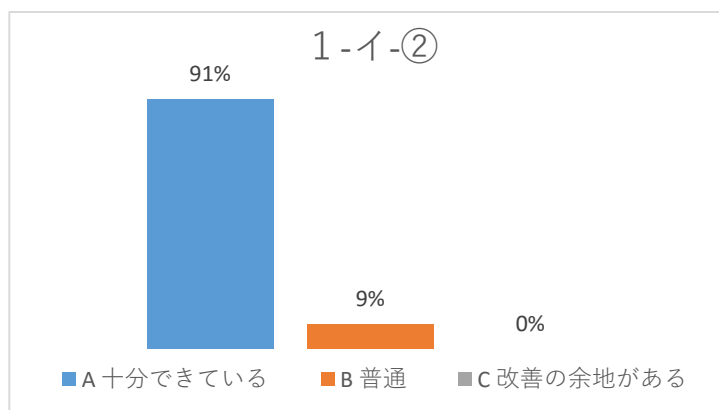
① 受診者に対して診察の結果について十分に説明を行っているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	8	73%
B 普通	3	27%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



② 受診者の家族に対して診察の結果について十分に説明を行っているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	10	91%
B 普通	1	9%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%

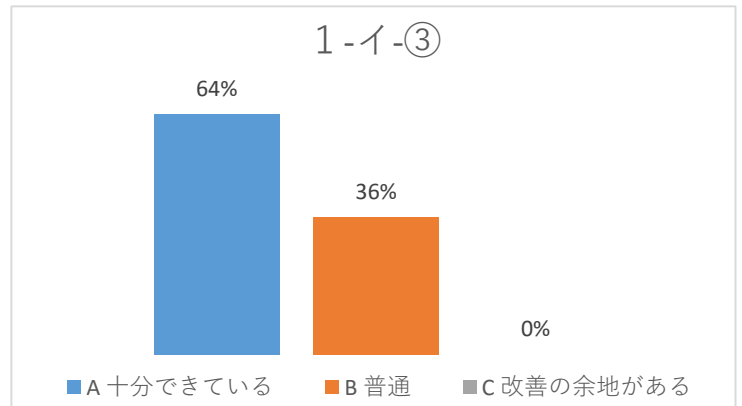


①、②において工夫している点

- ・ 診察の結果のみではなく家族の関わり方や、介護保険サービス等社会資源の利用案内を含めて説明を行い、生活への不安の軽減に努めている。
- ・ 相談員が診察に同席し、診察時の内容の理解度等を把握し診察後にフォローしている。
- ・ 初診～初期対応の期間は、原則として専門外来(もの忘れ外来)で診察を行っている。専門外来は1人当たり初診60分間、再診30分間の時間を設けており、十分な時間をかけて本人や家族の話を聞き、結果の説明や介護・認知症ケアの仕方等についてアドバイスを行うようにしている。
- ・ 説明後に理解度や不安等を確認している。

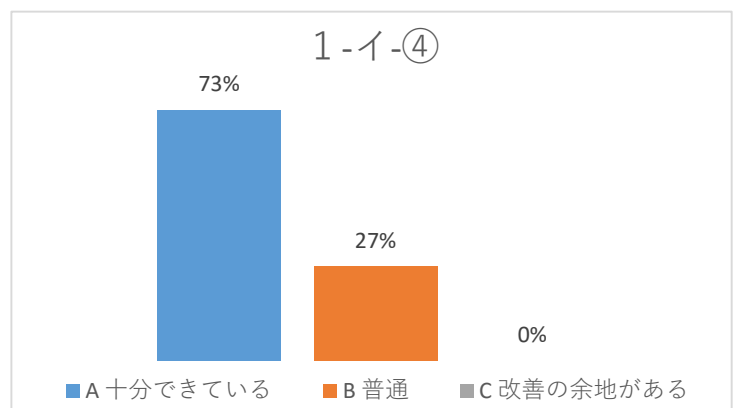
③ 治療方針を決定した後、安定期の医療ケアについて、適切にかかりつけ医に対応を依頼しているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	7	64%
B 普通	4	36%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



④ 介護サービス等が必要な場合、適切な情報提供等を行っているか

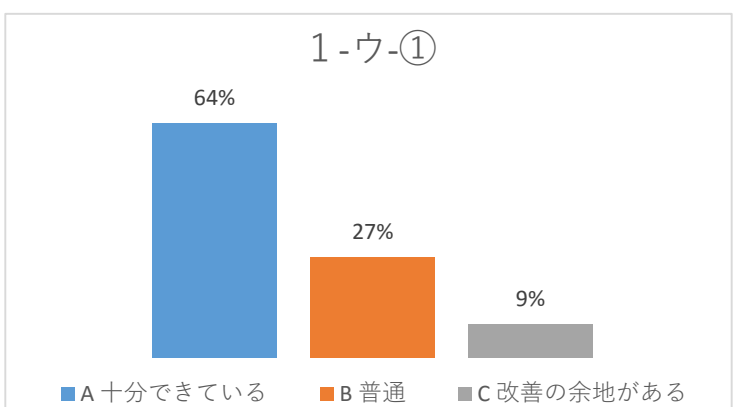
回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	8	73%
B 普通	3	27%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



ウ 認知症の行動・心理症状と身体合併症の急性期対応に関すること

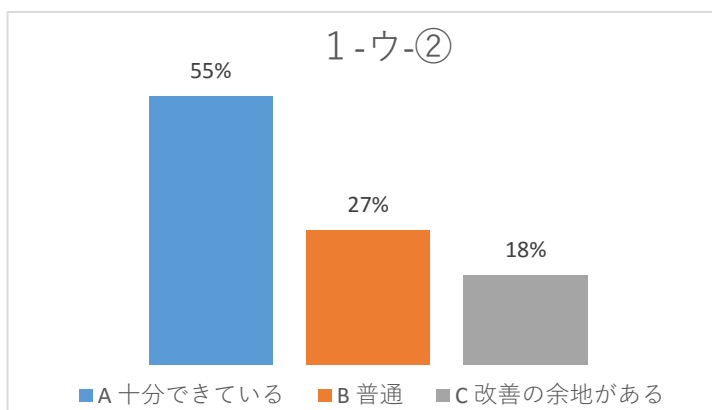
① 行動・心理症状に対する急性期治療を適切に行っているか、又は、他の対応可能な医療機関との連携が確保され、責任を持って対応できているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	7	64%
B 普通	3	27%
C 改善の余地がある	1	9%
合計	11	100%



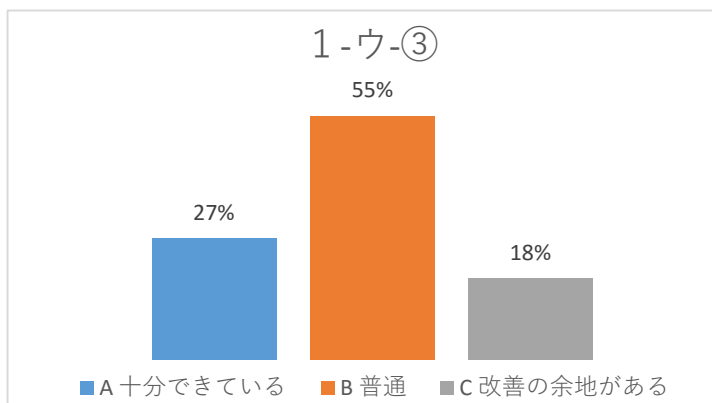
② 身体合併症に対する急性期治療を適切に行っているか、又は、他の対応可能な医療機関との連携が確保され、責任を持って対応できているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	6	55%
B 普通	3	27%
C 改善の余地がある	2	18%
合計	11	100%



③ 満床時など入院対応ができない場合等に備えて、日頃から他の専門医療機関との連携に努めているか

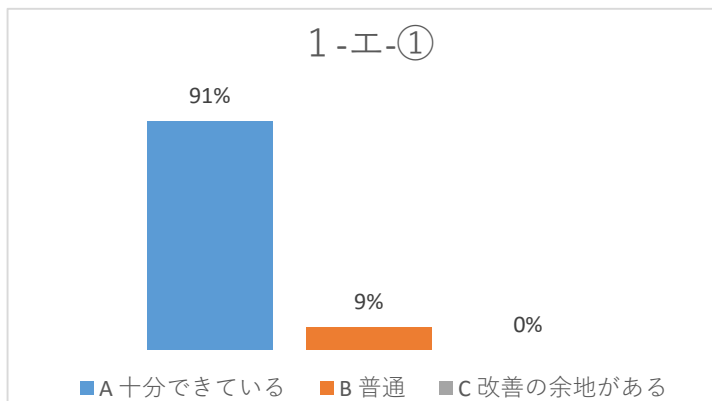
回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	3	27%
B 普通	6	55%
C 改善の余地がある	2	18%
合計	11	100%



エ 専門医療相談の実施

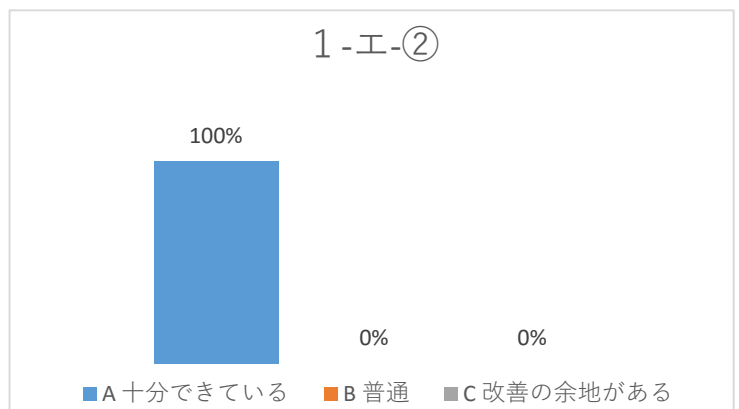
① 専門医療相談が実施できる体制が確保され、電話、面談等により相談が適切に実施されているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	10	91%
B 普通	1	9%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



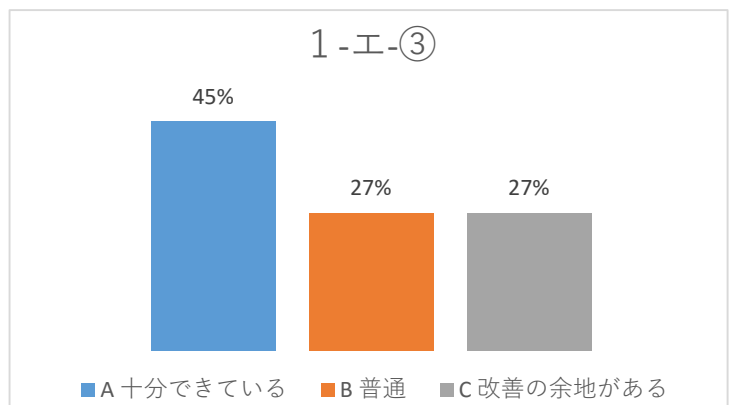
② 本人や家族等からの相談に対し、医療の提供が必要な場合には医療機関を、介護サービスや福祉サービスの提供が必要な場合には市町村や地域包括支援センター等を紹介しているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	11	100%
B 普通	0	0%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



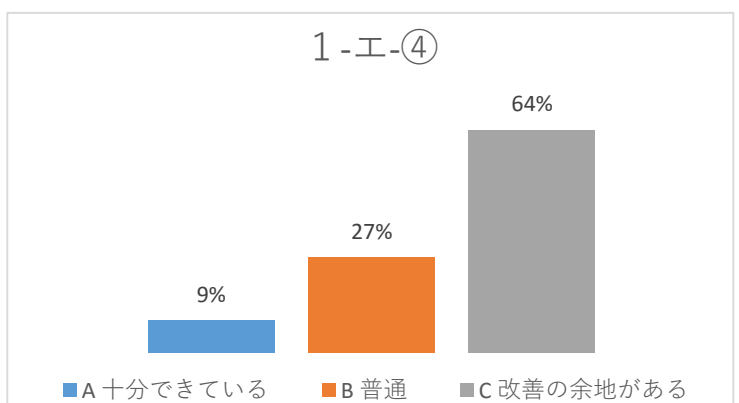
③ 平日の昼間に相談できない方にも対応するため、必要に応じて土曜日等にも相談窓口を開設しているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	5	45%
B 普通	3	27%
C 改善の余地がある	3	27%
合計	11	100%



④ 相談応需マニュアルを整備しているか

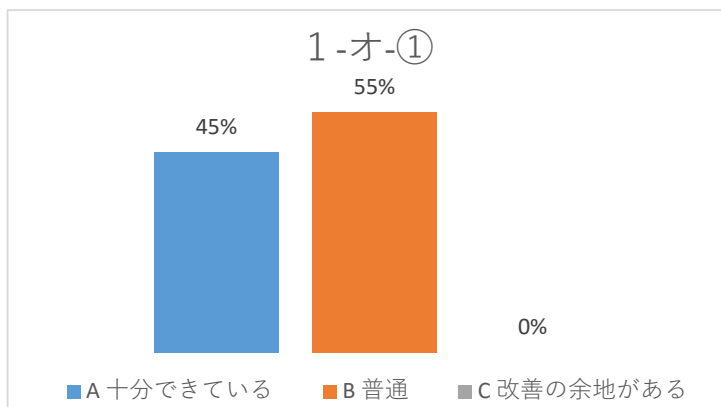
回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	1	9%
B 普通	3	27%
C 改善の余地がある	7	64%
合計	11	100%



オ 診断後の相談支援の実施

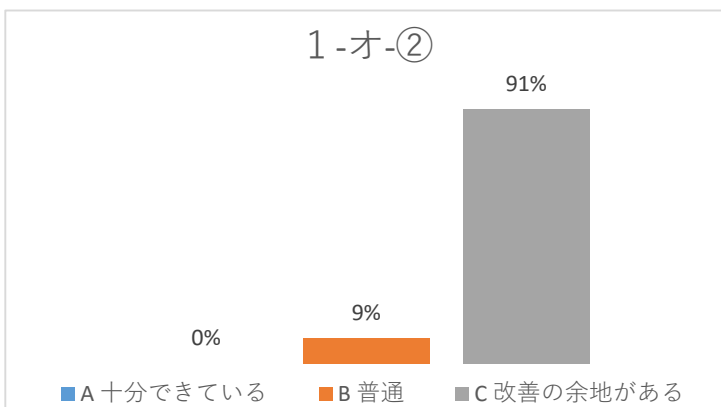
① 相談員による診断後の相談支援を行っているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	5	45%
B 普通	6	55%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



② ピアカウンセリングなどのピアサポート活動や交流会を実施しているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	0	0%
B 普通	1	9%
C 改善の余地がある	10	91%
合計	11	100%

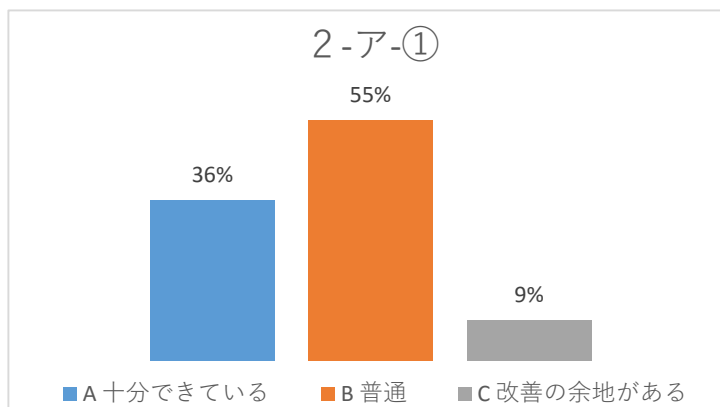


2 地域連携拠点としての機能

ア 認知症疾患医療センター連携会議の運営状況

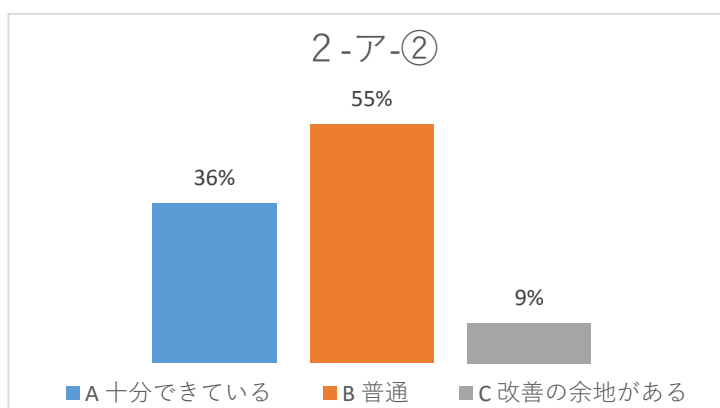
① 地域の認知症に関する支援体制づくりに関する検討等ができていますか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	4	36%
B 普通	6	55%
C 改善の余地がある	1	9%
合計	11	100%



② 担当圏域内の初期集中支援チームや地域包括支援センター、ケアマネジャー等からの認知症疾患医療センターに対する要望を把握しているか

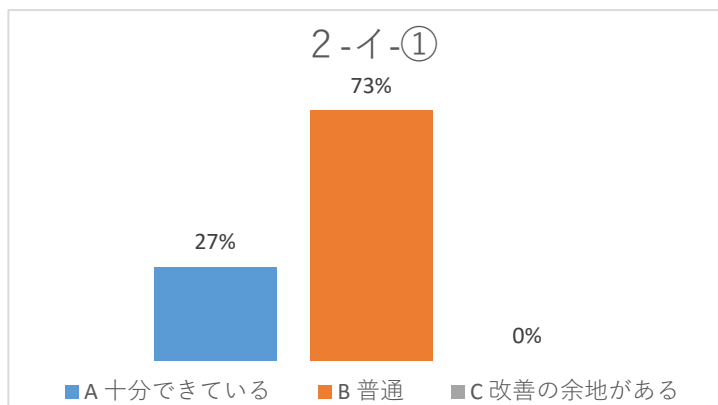
回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	4	36%
B 普通	6	55%
C 改善の余地がある	1	9%
合計	11	100%



イ 研修会の開催状況

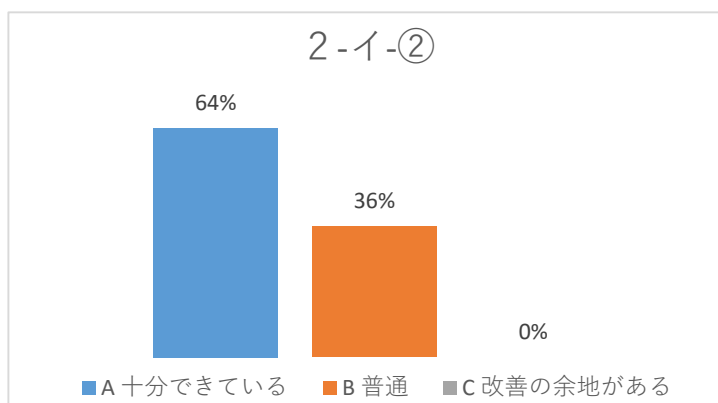
① 研修の企画立案については、前年度のアンケート結果や、地域の状況に対して考慮したプログラムになっているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	3	27%
B 普通	8	73%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



② 関係機関の実施する認知症医療に関する研修へ協力しているか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	7	64%
B 普通	4	36%
C 改善の余地がある	0	0%
合計	11	100%



3 センター事業に携わる職員の研修等（人材育成等）の実施状況

- ・ 病院職員、講義形式、「認知症について」「精神保健福祉法」。
- ・ 職員を対象とした、認知症の病態（中核症状、周辺症状など）や関わり方などについて。
- ・ 地域の介護福祉職や医師、看護師など対象別に内容を検討して開催。
- ・ 当院看護師に認知症対応研修を行っている（随時開催）。
- ・ 法人の全職員を対象に認知症疾患の院内勉強会を月1回開催している（ただし、コロナ禍になってからは講演を中止しており、昨年度はオンラインで見られる資料を各自閲覧してもらおう形で研修を開催した）。内容としては、認知症疾患の基礎知識やケア・対応の仕方など。
- ・ 認知症患者への入院中の対応について。
- ・ 学会等主催の研修会に各自参加。もの忘れ外来担当医を含めた事例検討会。

4 その他（センターとして評価できる取組み等について自由記載）

- 全患者に対して受診時には毎回、相談員が本人家族の状況を確認し、相談支援を実施している。
- 1. 総合病院であり、検査機器は充実している。また、三次救命救急センターを擁しており、あらゆる身体合併症への対応可能。ある意味、自己完結的である。
2. 公安委員会提出用診断書、1週間以内の作成可能。
3. 紹介状なしで認知症疑いの人が受診可能。
- 房総半島南部に認知症疾患医療センターが少ない関係上、安房地域に縛られず、二次医療圏を超えての病診連携（勝浦市や大多喜町、御宿町など広くカバーできるように）に取り組んでいる。
- 他施設や他地域の関連施設や地域包括支援センター等と積極的に連携している。
- 認知症初期集中支援チームに参加している。各市の認知症に関連する会議やイベントに参加している。
- 認知症予防、寝たきり予防のため、近隣住民が行う体操教室開催の支援（プログラムの提案など）や公的サービス以外での住民ボランティアによる高齢者見守り活動の支援を積極的に行っている。
- 認知症の普及啓発活動として、子ども向けの認知症教育オンラインワークショップの開催、子供向けの認知症教育本の製作を行った。
- 1-イの「本人への病名告知」は大変デリケートな問題である。告知を行い、直後から治療やリハビリを始めて寛解に至るといふ治療方針の道筋がしっかりしていない認知症領域の疾患に関しては、相応の配慮が必要となる。
一方、家族に対して、本人を支援し、協力してもらうこともあり、疾患への理解を得てもらうための説明を十二分に行うべきである。

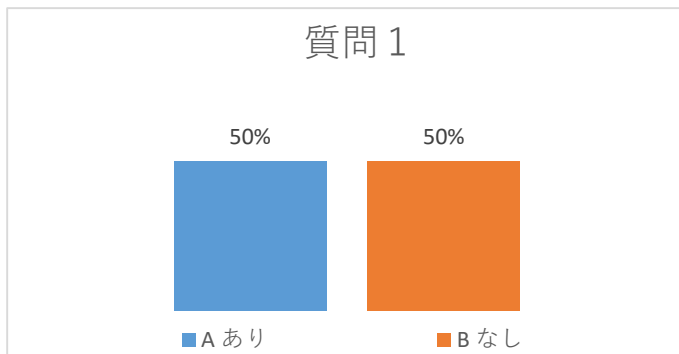
令和3年度認知症疾患医療センター事業評価の集計結果について (認知症サポート医回答分)

対象数	回答数	回答率
102	24	23.5%

【 質問 】

1 千葉県内の認知症疾患医療センター（以下、センター）と連携したことがありますか

回答	回答数	パーセンテージ
A あり	12	50%
B なし	12	50%
合計	24	100%



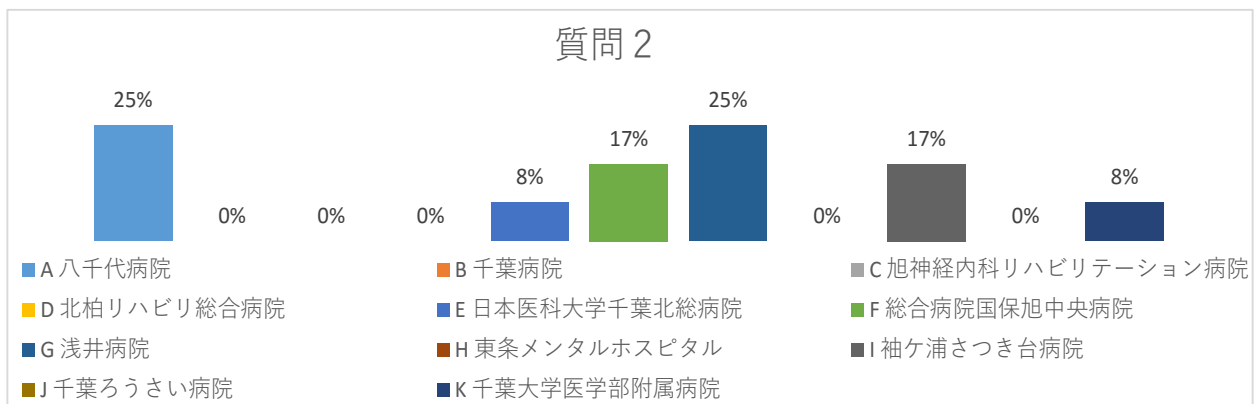
「B なし」と回答した理由（質問8の回答より抜粋）

- ・本人の承諾がとれない、あるいは家族が病院に本人を連れていけない。
- ・具体的にどのような方法で連携が図れるのか分からない。
- ・センター以外の医療機関で診療し、今のところ困ることがないため紹介していない。

※ 質問2から7は、質問1で「A あり」と回答した市町村・地域包括支援センターのみ回答の対象。

2 連携した実績が最も多いセンターを一つ選択してください

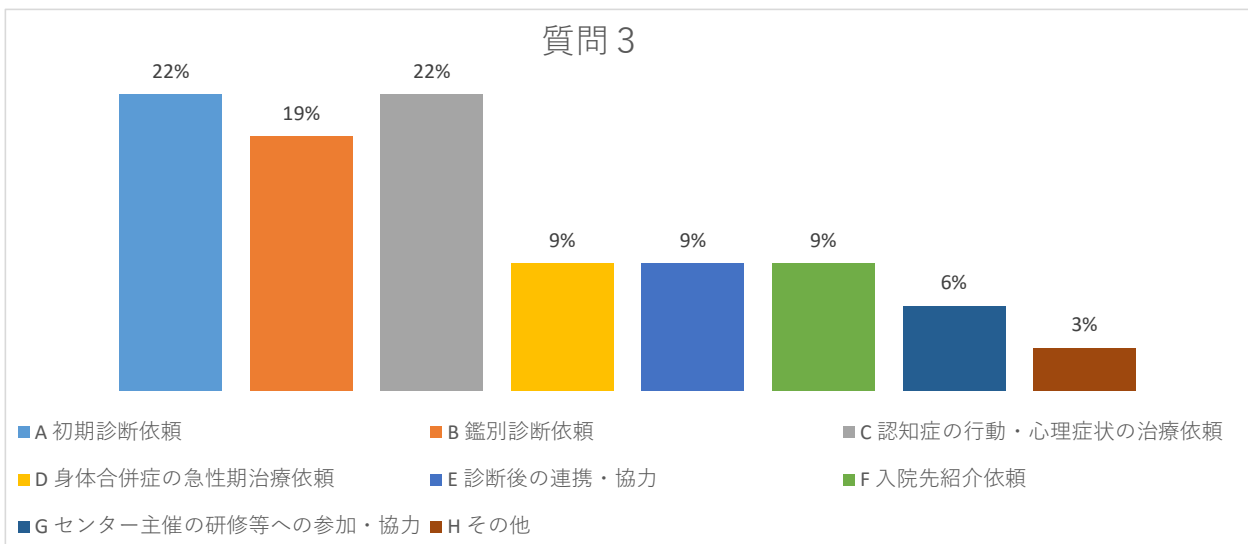
回答	回答数	パーセンテージ
A 八千代病院	3	25%
B 千葉病院	0	0%
C 旭神経内科リハビリテーション病院	0	0%
D 北柏リハビリ総合病院	0	0%
E 日本医科大学千葉北総病院	1	8%
F 総合病院国保旭中央病院	2	17%
G 浅井病院	3	25%
H 東条メンタルホスピタル	0	0%
I 袖ヶ浦さつき台病院	2	17%
J 千葉ろうさい病院	0	0%
K 千葉大学医学部附属病院	1	8%
合計	12	100%



3 連携した内容について回答してください

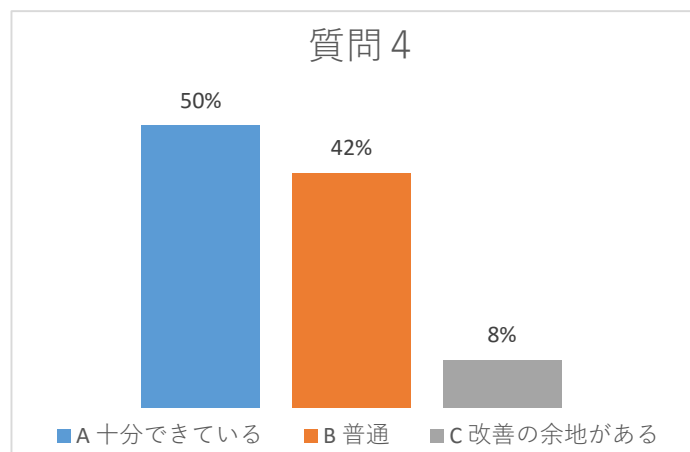
回答	回答数	パーセンテージ
A 初期診断依頼	7	22%
B 鑑別診断依頼	6	19%
C 認知症の行動・心理症状の治療依頼	7	22%
D 身体合併症の急性期治療依頼	3	9%
E 診断後の連携・協力	3	9%
F 入院先紹介依頼	3	9%
G センター主催の研修等への参加・協力	2	6%
H その他 (※)	1	3%
合計	32	100%

(※) H その他 の回答内容 免許更新診察



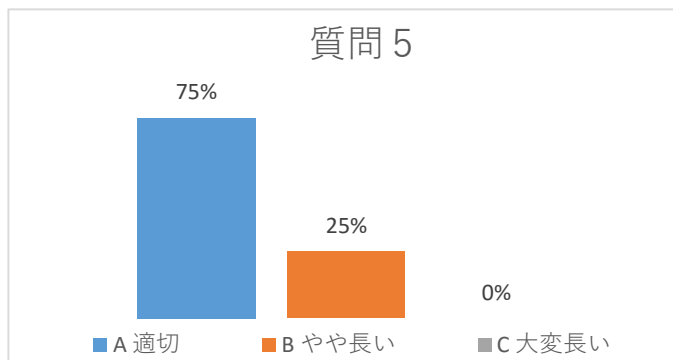
4 日頃、センターとの連携は円滑にできていますか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	6	50%
B 普通	5	42%
C 改善の余地がある	1	8%
合計	12	100%



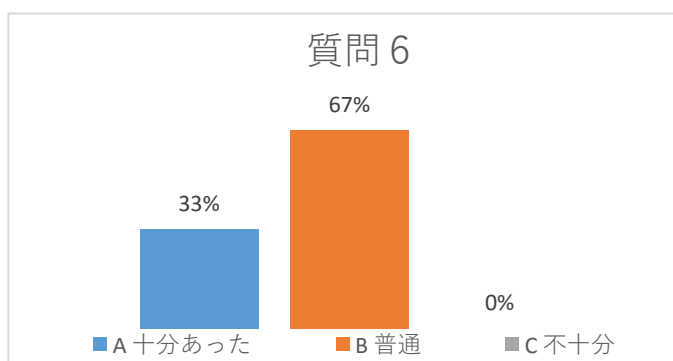
5 患者をセンターに紹介してから受診までの待機日数は適切と感じましたか

回答	回答数	パーセンテージ
A 適切	9	75%
B やや長い	3	25%
C 大変長い	0	0%
合計	12	100%



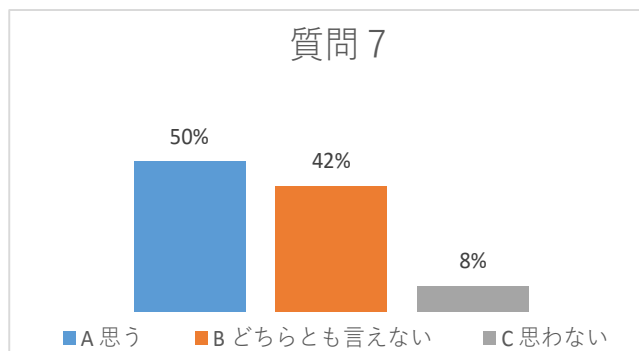
6 治療方針等について、十分な情報提供がありましたか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分あった	4	33%
B 普通	8	67%
C 不十分	0	0%
合計	12	100%



7 センターの利用について、患者は満足していると思われますか

回答	回答数	パーセンテージ
A 思う	6	50%
B どちらとも言えない	5	42%
C 思わない	1	8%
合計	12	100%



8 今後センターと連携を望むこと（自由記載）

アンケート総回答数	<質問8>回答数	回答率
24	10	41.7%

- ・相談したい症例は山のようにあるが、本人を病院に連れて行くことが大前提。本人の承諾がとれない、あるいは家族が病院に本人を連れていけない症例ばかりのため、どうしたら良いか日々悩んでいる。
- ・現場レベルでは認知症の困難症例等への対応がしばしばあるが、そのような際に具体的にどのような方法で連携が図れるのか分からない。また、そのような困難症例で連携を図れることを強く希望する。
- ・特殊事例等の情報共有。
- ・今後も情報共有や勉強会、研修を開催していただき、認知症施策の推進をしてもらいたい。
- ・BPSD 増悪例等、連携室を通じて素早く適切に対応していただき感謝している。一時期はコロナで対応困難となり大変困った。引き続き現状維持で連携体制をお願いしたい。
- ・診療科によって対応が異なる。神経内科、精神神経科の診察がすぐに行ってもらえない。
- ・人口 50 万人に近い市川市内にセンターがあると本当に良いと思っている。その様な中で、八千代病院や千葉病院をお願いすることがあるが、距離が遠いために難色を示されることが多い。結局、中山病院や国際医療研究センター国府台病院をお願いしている。現時点で、センターとの連携については、連携室がそれなりに対応してくれている。
- ・センター以外の医療機関で診療し、今のところ困ることがないため紹介していない。
- ・現状は十分な対応をしていただいておりますが特に要望はないが、これは特定の医師やスタッフの個人の資質と能力によるもので、全てのセンターが適切な連携を取れているとは言い難い。頑張る人間のみが疲弊していく現在の医療界の問題もあり、今後の医療連携機関のあり方に対して非常に大きな不安を感じている。高齢化社会に伴い相対的にも絶対的にも減少していく医療・介護スタッフの拡充と教育について国や県レベルでの対応を望む。
- ・認知症分類診断して投薬しても介護の度合いは変わらない。薬ではどうにもならない。

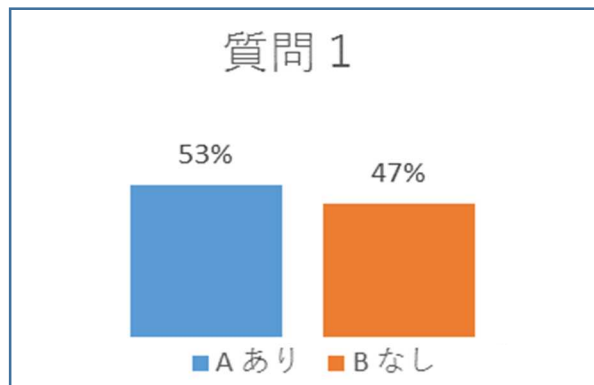
令和3年度認知症疾患医療センター事業評価の集計結果について (市町村・地域包括支援センター回答分)

対象数	回答数	回答率
278 (54 市町村、224 地域包括支援センター)	135	48.6%

【 質問 】

1 千葉県内の認知症疾患医療センター（以下、「センター」という。）と連携したことがありますか

回答	回答数	パーセンテージ
A あり	72	53%
B なし	63	47%
合計	135	100%



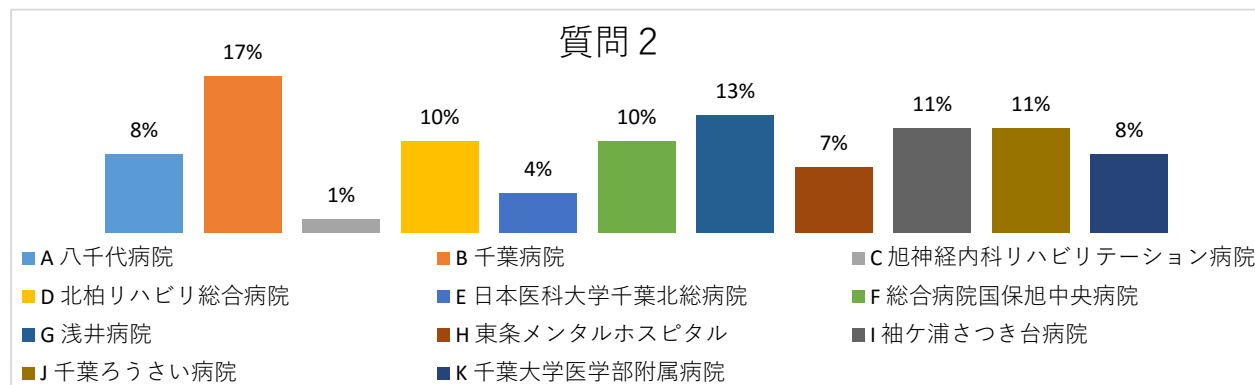
「B なし」と回答した理由（質問7の回答より抜粋）

- ・圏域のセンターが遠方のため通院が困難。
- ・どのような症例を繋いで良いか分からない。
- ・現状は市内の行政機関や関係病院との連携の中で対応できている。

※ 質問2から6は、質問1で「A あり」と回答した市町村・地域包括支援センターのみ回答の対象。

2 連携した実績が最も多いセンターを一つ選択してください

回答	回答数	パーセンテージ
A 八千代病院	6	8%
B 千葉病院	12	17%
C 旭神経内科リハビリテーション病院	1	1%
D 北柏リハビリ総合病院	7	10%
E 日本医科大学千葉北総病院	3	4%
F 総合病院国保旭中央病院	7	10%
G 浅井病院	9	13%
H 東条メンタルホスピタル	5	7%
I 袖ヶ浦さつき台病院	8	11%
J 千葉ろうさい病院	8	11%
K 千葉大学医学部附属病院	6	8%
合計	72	100%

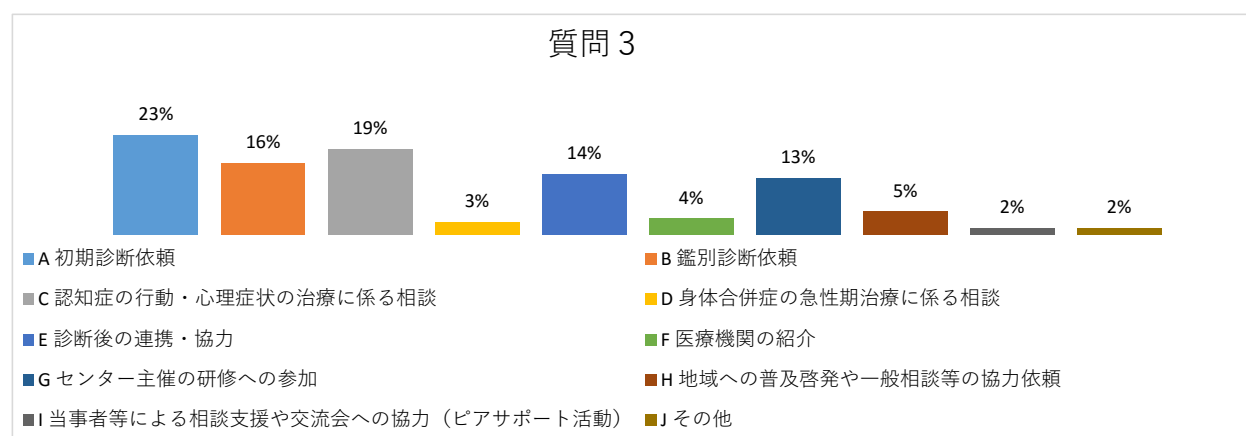


3 連携した内容について回答してください

回答	回答数	パーセンテージ
A 初期診断依頼	56	23%
B 鑑別診断依頼	40	16%
C 認知症の行動・心理症状の治療に係る相談	48	19%
D 身体合併症の急性期治療に係る相談	7	3%
E 診断後の連携・協力	34	14%
F 医療機関の紹介	9	4%
G センター主催の研修への参加	32	13%
H 地域への普及啓発や一般相談等の協力依頼	13	5%
I 当事者等による相談支援や交流会への協力（ピアサポート活動）	4	2%
J その他（※）	4	2%
合計	247	100%

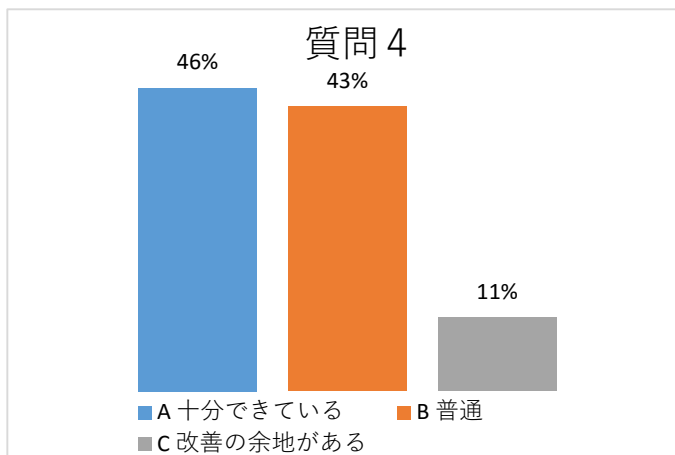
※ 「J その他」の回答内容

- ・ 支援対象者の情報提供
- ・ 介護支援専門員に対する講義の依頼
- ・ 入院の相談
- ・ 研修会の実施



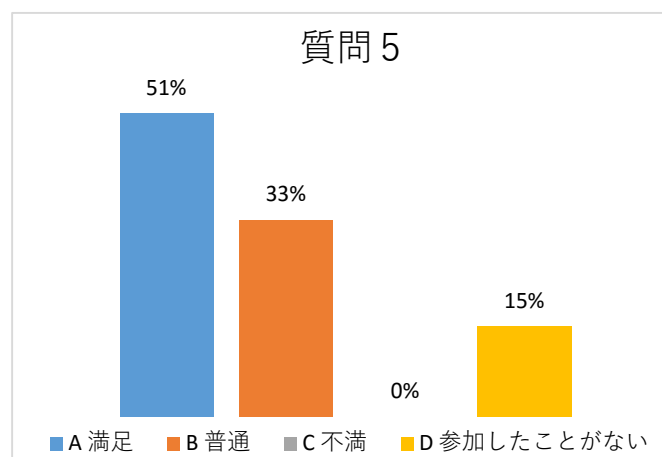
4 日頃、センターとの連携は円滑にできていますか

回答	回答数	パーセンテージ
A 十分できている	33	46%
B 普通	31	43%
C 改善の余地がある	8	11%
合計	72	100%



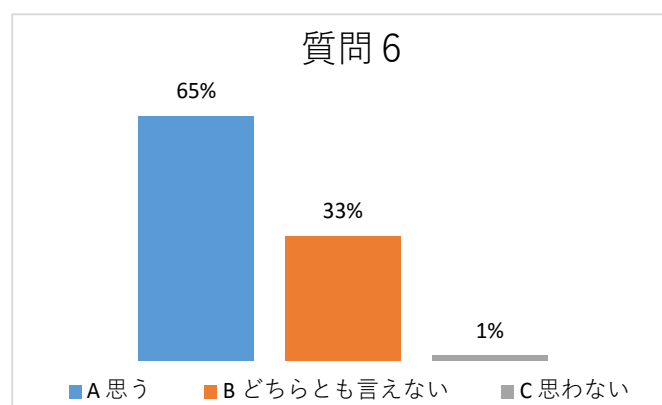
5 センター主催の研修会はいかがでしたか

回答	回答数	パーセンテージ
A 満足	37	51%
B 普通	24	33%
C 不満	0	0%
D 参加したことがない	11	15%
合計	72	100%



6 センターの利用について、患者は満足していると思われますか

回答	回答数	パーセンテージ
A 思う	47	65%
B どちらとも言えない	24	33%
C 思わない	1	1%
合計	72	100%



7 今後センターと連携を望むこと（自由記載）

※重複する内容は一部抜粋して掲載しています。

アンケート総回答数	<質問7>回答数	回答率
135	86	63.7%

- ・地域包括では様々な認知症の相談を受けるが、包括だけで解決できないことも多く、そのようなときに相談できる場所として、近所にセンターがあつて良かったと感じる。
- ・十分連携出来ている。相談のハードルも下げてください、目ごろから身近な相談機関として存在いただいている。
- ・まずは電話対応いただけるので相談しやすい。症状によると思うが、入院の選択肢が増えると支援内容の調整がしやすくなると思う。
- ・本人の前では相談できないことなども、事前に看護師へ連絡しておくことで医師に伝わりとても助かっている。
- ・病識の無い当事者に受診を説得するために、当事者宅まで訪問いただき助かっている。
- ・初期集中支援チームでよくお世話になっている。認知症の進行が思っていたより早く、チーム員の方も一生懸命取り組んでくれたが、結局支援がうまくいかなかったことがあった。効果的な支援に繋げる方法について伺いたい。
- ・BPSDにより在宅生活が困難なケースの受け入れや、短期間で認知症についての診断と入院治療していただくこともある。今後もスムーズな連携を継続していきたい。
- ・現状は市内の行政機関や関係病院との連携の中で対応できているためセンターとの連携の機会がないが、心強い相談先だと思っている。
- ・どのような症例を繋いで良いか分からない。また、どのような流れで繋ぎ、経過していくのか分からないため、実例を交えて教えて欲しい。
- ・認知症の診断、BPSD への対応、精神症状への診断などの相談が多く入る。包括でも案内できるよう、どのような体制で診断をしているかなどの具体的な情報が欲しい。
- ・連携室の特定の人をお願いしないと対応してもらえない。医師以外に相談窓口がない。
- ・検査、診断の予約方法を分かりやすくして欲しい。手続きも多く連携しづらい。
- ・センターの初回受診には相談者が多く直ぐに受診できないケースもあるため、受診枠が多くなると助かる。またはセンターの増加を望む。
- ・外来の予約が数ヶ月先になる場合があり、タイムリーな対応をしてもらえない。
- ・緊急入院の返事に時間がかかり結局入院できないので、判断をもう少し早くして欲しい。

- ・BPSD（認知症の行動・心理症状）が激しく、緊急の相談が地域包括に入ることがある。その場合は緊急入院が可能な精神科病院を1件1件あたることになるが、当日はほぼ受け入れてもらえない厳しい状況。数日間だけでもセンターで緊急対応してもらい、その後他の病院へ移る等の連携をして欲しい。

- ・対応に困っている支援困難ケースに対して色んな角度からの意見や助言。
- ・当事者と家族が支援に対して拒否的な場合等の介入困難な事例が増えており、介入のヒントを一緒に見出す支援をして欲しい。また、キーパーソンの役割を担う方が、精神障害や発達障害、グレーゾーンな方のみで現状認識が共有しにくい場合はより介入に時間がかかり、最悪病状悪化してしまうケースが多いため、その場合に即戦力としての助言者、伴走者になっていただきたい。

- ・確定診断と内服管理・指導の協働。生活指導が難しい場合は地域包括に繋いで欲しい。
- ・MCI（軽度認知障害）への対応。
- ・認知症の方の運転免許証返納について、過去2回ほど連携して対応いただいた。包括だけで対応するには限界がある課題のため、今後もセンターの力を貸していただきたい。

- ・サポート医、地域包括支援センターと連携強化できる環境をセンター中心に作りたい。
- ・身寄りのない認知症独居高齢者の支援について、受診に繋げる方法や認知症以外の疾患による入院が必要になった場合の対応など、医療機関と連携が取れる仕組み作りを一緒に考えて欲しい。
- ・圏域のセンターが遠方のため通院が困難。当事者本人に病識の無い方が多く、精神科の医療機関に繋ぐのも大変な状況。今後は認知症疾患医療センターと地域のかかりつけ医との遠隔診療が求められると思う。地域のかかりつけ医のスキルアップ等、群市町村医師会とも連携して対応いただきたい。
- ・地域での「当事者の会」や「家族の会」を協力して発足したい。
- ・認知症と診断された方をフォローできる体制づくり。ピアサポート、家族支援の構築を先頭に立って取り組んで欲しい。救急搬送で入院となり、家族にも問題があり成年後見の診断書を依頼するも書けないとなった。病院同士で連携が取れないのかと感じる。
- ・家族の負担が軽減できる支援策を一緒に考えていけると良い。
- ・センターの医師が訪問診療や往診などをしてもらえると介入しやすい。

- ・高齢化の進行に伴い認知症高齢者も増加していく中で、センターと地域の連携はますます必要となり、地域特性を活かした連携が必要となってくる。当地域のセンターは、農村地区であることや比較的同居家族がいる世帯が多いなどの地域特性を考慮した相談内容にも対応いただき大変心強い。

- ・センターとの連携は回数を重ねていくことが大切だと思う。定期的に相談できる機会、連携の場があると更に気軽に相談できるのではないかと考える。
- ・感染症拡大後は参集型研修ではなく資料配布のみになった。チーム員のスキルアップとセンターとの連携強等を目的に、zoom等を活用した研修会の開催があるとより良い。
- ・顔の見える関係づくりは大切なので、今後も事例研究や研修会等の機会があれば参加したい。住民フォーラムでセンターについて講演依頼したが、とても分かりやすい内容で住民から好評だった。

- ・特殊事例等の情報共有。
- ・居宅介護支援事業所や地域の相談機関のスキル向上への支援。
- ・若年性認知症の方に対する支援についての勉強会や事例報告。
- ・認知症の人が受診拒否した場合の対応等の研修。

認知症疾患医療センター事業評価様式
(認知症疾患医療センター自己評価用)

資料 2 - 4

センター名

- ・令和3年度の状況を御記入ください
- ・自己評価区分

A 十分できている、B 普通、C 改善の余地がある

※1 自由記載欄のため必要に応じて行を伸ばしてください

1 専門的医療としての機能

	評価項目	自己評価
ア 認知症原因疾患別の鑑別診断の実施	①R3.4.1からR4.2.28までの初診までの待機日数(緊急枠等を除く、予約受付時からセンターでの初診までの平均日数)	
	② ①の日数について、どのような評価をしているか	
イ 治療方針の選定に関する事	①受診者に対して診察の結果について十分に説明を行っているか	
	②受診者の家族に対して診察の結果について十分に説明を行っているか	
	①、②において工夫している点があれば御記載ください※1	
	③治療方針を決定した後、安定期の医療ケアについて、適切にかかりつけ医に対応を依頼しているか	
ウ 認知症の行動・心理症状と身体合併症の急性期対応に関する事	④介護サービス等が必要な場合、適切な情報提供等を行っているか	
	①行動・心理症状に対する急性期治療を適切に行っているか、又は、他の対応可能な医療機関との連携が確保され、責任を持って対応できているか	
	②身体合併症に対する急性期治療を適切に行っているか、又は、他の対応可能な医療機関との連携が確保され、責任を持って対応できているか	
エ 専門医療相談の実施	③満床時など入院対応ができない場合等に備えて、日頃から他の専門医療機関との連携に努めているか	
	①専門医療相談が実施できる体制が確保され、電話、面談等により相談が適切に実施されているか	
	②本人や家族等からの相談に対し、医療の提供が必要な場合には医療機関を、介護サービスや福祉サービスの提供が必要な場合には市町村や地域包括支援センター等を紹介しているか	
	③平日の昼間に相談できない方にも対応するため、必要に応じて土曜日等にも相談窓口を開設しているか	
	④相談応需マニュアルを整備しているか マニュアルを整備している場合、提供ください。	
オ 診断後の相談支援の実施	①相談員による診断後の相談支援を行っているか	
	②ピアカウンセリングなどのピアサポート活動や交流会を実施しているか	

2 地域連携拠点としての機能

評価項目		自己評価
ア 認知症疾患医療センター連携会議の運営状況	①地域の認知症に関する支援体制づくりに関する検討等が できているか	
	②担当圏域内の初期集中支援チームや地域包括支援センター、ケアマネジャー等からの認知症疾患医療センターに対する要望を把握しているか	
イ 研修会の開催状況	①研修の企画立案については、前年度のアンケート結果や、地域の状況に対して考慮したプログラムになっているか	
	②関係機関の実施する認知症医療に関する研修へ協力しているか	

3 センター事業に携わる職員の研修等(人材育成等)の実施状況

評価項目		自己評価
ア 研修対象者及び研修の実施方法	①どのような内容の研修を実施しているか ※1	
イ 研修内容		

4 その他(センターとして、評価できる取組み等がありましたら、御記入ください)※1

認知症疾患医療センター事業評価様式
(認知症サポート医用)

資料 2 - 5

・令和3年度の状況を御記入ください

1 貴医療機関の所在市町村を回答してください

2 千葉県内の認知症疾患医療センター(以下センター)と連携したケースがありますか

回答一覧

A あり、B なし

A あり→ 3へお進みください

B なし→ 9へお進みください

3 連携した実績が最も多いセンターを一つ選択してください

回答一覧

A 八千代病院、B 千葉病院、C 旭神経内科リハビリテーション病院、D 北柏リハビリ総合病院、
E 日本医科大学千葉北総病院、F 総合病院国保旭中央病院、G 浅井病院、
H 東条メンタルホスピタル、I 袖ヶ浦さつき台病院、J 千葉ろうさい病院、
K 千葉大学医学部附属病院

以下の設問は2 で回答したセンターについて回答してください

4 連携した内容について、○を記入してください(複数回答可)

A 初期診断依頼	
B 鑑別診断依頼	
C 認知症の行動・心理症状の治療依頼	
D 身体合併症の急性期治療依頼	
E 診断後の連携・協力	
F 入院先紹介依頼	
G センター主催の研修等への参加・協力	
H その他↓内容を御記入ください	

5 日頃、センターとの連携は円滑にできていますか

回答一覧

A 十分できている、B 普通、C 改善の余地がある

6 患者をセンターに紹介してから受診までの待機日数は適切と感じましたか

回答一覧

A 適切、B やや長い、C 大変長い

7 治療方針等について、十分な情報提供がありましたか

回答一覧

A 十分あった、B 普通、C 不十分

8 センターの利用について、患者は満足していると思われませんか

回答一覧

A 思う、B どちらとも言えない、C 思わない

9 今後センターと連携を望むことについて、記載してください

御協力ありがとうございました。

千葉県認知症疾患医療センター事業評価様式
(市町村、地域包括支援センター用)

資料2-6

・令和3年度の状況を御記入ください。

1 千葉県内の認知症疾患医療センター(以下センター)と連携したことがありますか

回答一覧

A あり、B なし

- A あり→ 2へお進みください
B なし→ 7へお進みください

2 連携した実績が最も多いセンターを一つ選択してください

回答一覧

A 八千代病院、B 千葉病院、C 旭神経内科リハビリテーション病院、D 北柏リハビリ総合病院、
E 日本医科大学千葉北総病院、F 総合病院国保旭中央病院、G 浅井病院、
H 東条メンタルホスピタル、I 袖ヶ浦さつき台病院、J 千葉ろうさい病院、
K 千葉大学医学部附属病院

以下の設問は2 で回答したセンターについて回答してください

3 連携した内容について、○を記入してください(複数回答可)

A 初期診断依頼	
B 鑑別診断依頼	
C 認知症の行動・心理症状の治療に係る相談	
D 身体合併症の急性期治療に係る相談	
E 診断後の連携・協力	
F 医療機関の紹介／相談	
G センター主催の研修への参加	
H 地域への普及啓発や一般相談等の協力依頼	
I 当事者等による相談支援や交流会への協力(ピアサポート活動)	
J その他↓内容を御記入ください	

4 日頃、センターとの連携は円滑にできていますか

回答一覧

A 十分できている、B 普通、C 改善の余地がある

5 センター主催の研修会はいかがでしたか

回答一覧

A 満足、B 普通、C 不満、D 参加したことがない

6 センターの利用について、患者は満足していると思われますか

回答一覧

A 思う、B どちらとも言えない、C 思わない

7 今後センターと連携を望むことについて、記載してください

御協力ありがとうございました。